

# 平成23年度病害虫発生予報第5号

平成23年8月2日  
愛知 県

## 1 普通作物

いもち病（葉いもち）の発生量は平年並ですが、葉いもちが発生しているほ場では、今後の天候によって穂いもちが発生するおそれがあります。ほ場での発生状況を確認し、上位葉に病斑を見つけたら防除を実施しましょう。

セジロウンカの発生量は平年並ですが、多いほ場があります。また、ヒメトビウンカ幼虫の発生量が、かなり多いほ場を複数確認しています。いずれもほ場での生息状況を確認して、必要に応じて防除しましょう。なお、本県においてトビロウンカの飛来および発生は現在のところ確認されていません。しかし、広島県、和歌山県、宮崎県では予察灯で誘殺されています。本種は、ほ場内で局部的に生息することが多いので注意してください。ウンカ類の飛来・生息状況は、本日発表の「ウンカ情報第2号」を参照してください。

斑点米の原因となるアカスジカスミカメなどのカメムシ類の発生が、平年と比べ多くなっているため、注意が必要です。出穂期直前に畦畔や土手などの草刈りを行うと、カメムシ類を水田へ追い込むことになるので気をつけましょう。詳細は、7月15日発表の「病害虫発生予察注意報第3号」を参考にしてください。

ハスモンヨトウのフェロモントラップにおける誘殺数は、現在のところやや多く（やや早く）推移しています。ダイズでは白変葉が見え始めたら、速やかに防除しましょう。詳細は本日発表の「ハスモンヨトウ情報第1号（ダイズ）」を参考にしてください。

## 2 果樹

ウンシュウミカンでは、チャノキイロアザミウマの発生量は平年並の状況です。この時期の加害は果頂部の被害となります。第5世代の平坦部での発生ピークは8月9日から8月16日と予測します。詳しくは本日発表の「チャノキイロアザミウマ情報第4号」を参考にしてください。

ナシでは、黒星病の発生が多いほ場があります。来作のため秋期防除の準備をしましょう。

モモではハダニ類の発生がやや多いほ場が見られます。早期落葉を防ぐために収穫後に防除を行いましょう。

カキでは東三河地域の一部でコナカイガラムシ類の発生が多いほ場があります。これからの時期はコナカイガラムシ類の天敵を活かした防除が効果的です。防除する場合は、天敵への影響の少ない薬剤を選択して使用するようしましょう。

果樹カメムシ類は、ヒノキ球果を餌として増殖し、養分を吸収しつくしてヒノキ球果が餌として適さなくなると果樹園に飛来してきますが、7月下旬の調査では、ヒノキ球果量が十分にあり、球果の食害が少なかったため、8月に果樹園へ大量飛来する可能性は低いでしょう。詳しくは本日発表の「果樹カメムシ情報第2号」を参考にしてください。

## 3 野菜

ハスモンヨトウのフェロモントラップにおける誘殺数が現在のところやや多く推移しています。8月以降は急増する時期ですので、ほ場での発生状況に注意が必要です。

アブラナ科野菜では、ハスモンヨトウ、ハイマダラノメイガなどの加害を防ぐため、育苗時には農薬による防除だけでなく防虫ネットなどで覆い、成虫の侵入を防ぎましょう。

トマトではコナジラミ類の発生が増加する時期です。TYLCVの感染を防ぐため、育苗時、定植時には寄生の有無を確かめるとともに、タバココナジラミに効果のある粒剤を施用しましょう。また侵入防止対策として、施設開口部に防虫ネット（目合0.4mm以下）を設置しましょう。

## 4 花き

オオタバコガのフェロモントラップにおける誘殺数は平年並です。キク（露地）では例年8月以降発生が増加するので、ほ場での発生動向に注意してください。

## 普通作物

### ・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報へ の影響
イネ	いもち病 (穂いもち)	やや多い	全域	7月下旬の葉いもちの発生量は 平年並 8月の気温は平年並 8月の降水量はやや多い	± ± +
	紋枯病	平年並	全域	7月下旬の発生量はやや少ない 8月の気温は平年並 8月の降水量はやや多い	- ± +
	白葉枯病	平年並	全域	7月下旬の発生量は平年並	±
	もみ枯細菌病	やや多い	全域	7月下旬の発生量は平年並 8月の降水量はやや多い	± +
	ニカメイガ	平年並	全域	7月下旬の被害株率は平年並 予察灯における誘殺数は平年並 フェロモントラップにおける誘 殺数は平年並	± ± ±
	セジロウンカ	やや少ない	全域	7月下旬の発生量はやや少ない 予察灯における誘殺数は平年並	- ±
	トビイロウン カ	平年並	全域	7月下旬現在、発生を確認して いない	±
	ツマグロヨコ バイ	平年並	全域	7月下旬の発生量は平年並 予察灯における誘殺数は平年並	± ±
	斑点米カメム シ類	やや多い	全域	7月下旬の発生量はやや多い	+
	イチモンジセ セリ(イネツ トムシ)	平年並	全域	7月下旬の被害株率は平年並	±
	フタオビコヤ ガ(イネアオ ムシ)	やや多い	全域	7月下旬の被害株率は多い 予察灯における誘殺数は平年並	+ ±
コブノメイガ	やや少ない	全域	7月下旬の被害株率は少ない フェロモントラップにおける誘 殺数は平年並	- ±	
ダイズ	ハスモンヨト ウ	やや多い (やや早 い)	全域	フェロモントラップにおける誘 殺数はやや多い 8月の気温は平年並	+ ±

### ・防除対策

#### 〔イネ・いもち病〕

本日発表の「いもち病情報第4号」を参照してください。

#### 〔イネ・もみ枯細菌病〕

バリダシン液剤5、オリゼメート1キロ粒剤などで防除しましょう。

#### 〔イネ・斑点米カメムシ類〕

7月15日発表の「病害虫発生予察注意報第3号」を参照してください。

#### 〔イネ・フタオビコヤガ(イネアオムシ)〕

スミチオン乳剤、MR.ジョーカーEWなどで防除しましょう。

#### 〔ダイズ・ハスモンヨトウ〕

本日発表の「ハスモンヨトウ情報第1号」を参照してください。

## 果樹

### ・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
ウンシュウミカン	黒点病	平年並	全域	せん定枝の胞子形成量は少ない 8月の降水量はやや多い	- +
	ミカンハダニ	やや多い	全域	7月下旬の発生量はやや多い	+
	チャノキイロ アザミウマ	平年並	全域	7月下旬の防風用のマキにおける 払い落とし虫数は平年並 黄色粘着トラップにおける誘殺 数は平年並	± ±
ナシ	ハダニ類	平年並	全域	7月下旬の発生量は平年並	±
	ナシヒメシンクイ	平年並	全域	フェロモントラップにおける誘 殺数は平年並	±
モモ	せん孔細菌病	やや多い	全域	7月下旬の発生量は平年並 8月の降水量はやや多い	± +
	モモハモグリガ	やや少ない	全域	フェロモントラップにおける誘 殺数は少ない 7月下旬の被害葉率は平年並	- ±
カキ	うどんこ病	やや少ない	全域	7月下旬の発生量はやや少ない	-
	カキノヘタムシガ	平年並	全域	第1世代幼虫による被害果率は 平年並	±
	コナカイガラムシ類	平年並	全域	7月下旬の寄生結果枝率は平年 並	±
果樹共通	カメムシ類	少ない	全域	予察灯およびフェロモントラッ プにおける誘殺数は少ない 7月下旬のヒノキにおける寄生 頭数は少ない 7月下旬におけるヒノキ球果の 口針鞘数は少ない	- - -

### ・防除対策

〔ウンシュウミカン・ミカンハダニ〕

多発生園ではスターマイトフロアブル、マイトコーネフロアブル、バロックフロアブルなどで防除しましょう。

〔モモ・せん孔細菌病〕

多発生園では早期落葉の防止、越冬菌密度の低下を図るために収穫後にバリダシン液剤5、デランフロアブルなどで防除しましょう。

## 野菜

### ・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
キャベツ	オオタバコガ	平年並	全域	フェロモントラップにおける誘 殺数は平年並 8月の気温は平年並	± ±
野菜共通	ハスモンヨトウ	やや多い (やや早 い)	全域	フェロモントラップにおける誘 殺数はやや多い 8月の気温は平年並	+ ±

### ・防除対策

〔野菜共通・ハスモンヨトウ〕

ハクサイでは、フェニックス顆粒水和剤、アニキ乳剤などで防除しましょう。

キャベツでは、プレバソンフロアブル5、マッチ乳剤などで防除しましょう。

## 花き

### ・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報へ の影響
キク（露地）	ミナミキイロ アザミウマ	平年並	全域	7月下旬の発生量は平年並 8月の気温は平年並	± ±
	オオタバコガ	平年並	全域	フェロモントラップにおける誘 殺数は平年並 8月の気温は平年並	± ±

### 参考

東海地方 1か月予報（名古屋地方気象台7月29日発表）

予想される向こう1か月の天候

東海地方では、平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。

向こう1か月の気温は高い確率30%、平年並40%、低い確率30%。降水量は平年並または多い確率ともに40%、日照時間は平年並または低い確率ともに40%です。

週別の気温は、1週目は低い確率50%、平年並40%、2週目は平年並または低い確率40%、3～4週目は平年並または高い確率とも40%です。

向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率

〔気温〕 低い：30% 平年並：40% 高い：30%

〔降水量〕 少ない：20% 平年並：40% 多い：40%

〔日照時間〕 少ない：40% 平年並：40% 多い：20%

### 農薬危害防止運動実施中（6月1日から8月31日まで）

今年度の重点事項は次の3つです。

- 1 農薬ラベルの十分な確認
- 2 農薬の飛散防止
- 3 農薬の盗難・紛失等の防止

農薬を使用する前に、ラベルの内容をよく確認し、使用方法を守りましょう。

農薬の飛散防止に努めましょう。

- ・防除面積や用途に応じた防除器具、散布ノズルを選択しましょう。
- ・散布するときは朝夕など風の影響が少ない時間を選びましょう。
- ・風向きに注意し、他の作物の方向に散布しないように作業しましょう。
- ・飛散の恐れがあるときは、近接ほ場の生産者に連絡しておきましょう。

農薬は、安全な場所に鍵をかけて保管しましょう。

- ・農薬は、「普通物」と「毒物」「劇物」を区別して、鍵の掛かる場所に保管しましょう。
- ・農薬散布の準備中も、畑やハウス、自動車などに安易に放置せず、適切に管理しましょう。